桜染

発行所
郡山市外徳定字中河原1
日大東北工高同窓会
発行人　半沢　忠
編集人　広長威彦

母校との継がりを深めよ

第五回総会開く

一月二日、例年のごとく郡山市商工会館大ホールにおいて第五回定期総会が会員三十余名と来賓として庄司教頭はじめ職員の松崎先生、大塚・森田・増井および加藤太田・山口（弘）の諸先生の御出席のもとに小林君の開会の辞で開かれた。

会長半沢君の挨拶のあと、来賓各位のことばをいただき、三十四年度一般経過報告、宇都宮支部長増子禎祐君（一電力）の報告（関東・茨城の両支部長は出席せず）三十四年度会計報告に続いて議事の審議に移つた。

❶規約改正　クラス幹事の設置について。❷三十五年度予算。以上役員案を異議なく決定し、その他として会員より提出された会員、恩師の弔慰金の額を規定せよとの案に対して、役員側としては、会員に対しては会員が多くなる一方なのに、会費はそれほどに増加せず、また会費未納の会員に対しても弔慰金を出すのは疑問があると発言があり了承したが、恩師に対しては出来るだけ多く出すべきだとの意向が強く、結局、予算の関係もあり、また他とのつり合いも考えてと云う事で、金額については役員一任となつた。

——（総会々場風景）——

次に学校側より応援歌の募集、校舎建設等に対する協力の要請があり全員了解した。

以上議事終了後懇親会に入り、乾杯し、その後の消息を話し合いかくし芸、校歌の合唱など時の過ぎるのも忘れ、互に旧交を温め、新しい友情を交した。終りに「若きエンジニヤ」を合唱し、来年の再会を約して散会とした。

盛会に終了す

第三回関東支部大会

第三回関東支部大会は、五月二十九日の日曜日午後一時より、秋葉原の日大校友会館を会場にして盛大に催された。今回は最多数の同窓生が参加し、特に卒業間もない第七期生の出席が多かつたことは有意義だつた。それに本部より半沢会長と小林、星野の両君が出席し、総勢五十一名の出席で広いホールも一杯の盛況に支部役員一同嬉しい悲鳴で、天手古舞の状態だつた。

支部長挨拶、一般経過報告、会計報告、本部代表の挨拶があつて議題に入つた。まず役員、ブロック委員の改選、関東支部のあり方等について討議した。

議事終了後は例によつて懇親会に移り、ビールのアワに曾紅顔の美青年？といつたところ、江戸寿司の美味に舌鼓みを打ちながら旧交を新たに、各々の歓弁は尽きない。時の経過はまたたく間に尽きぬ名残りを惜しみながら、全員記念撮影ののち、再会の握手を交して別れた。

橋本春雄（四化）（東邦電化KK）

なお、前役員の国分弘、清水弼祐、村上邦男の三君は当支部の顧問として残ることになつた。

第三回大会出席者の若々しい顔

新役員決る

関東支部

本大会に於て役員およびブロック委員が改選され、新役員に次の諸君が決定した。

◆役員

支部長　高原　広康（二化）（専売公社中央研究所）

副支部長　会田　照男（二機）（日本鋼管鶴見）

増子　国嘉（三化）（日本鋼管KK）

書記　佐藤　義家（二電）（東洋電極工業KK）

古宮　重信（三電）（日本航空機器KK）

会計　大山　照男（一電）（日野ヂーゼル）

佐川　隆祥（二機）（専売公社中央研究所）

◆ブロック委員

▼中央ブロック

千葉　公允（二化）（明治ゴムKK）

生田目　伍郎（三電）（明電舎）

▼京浜ブロック

坪内　元嘉（二化）（日本鋼管KK）

渡辺　公功（六電）（小向電機KK）

▼京北ブロック

久保田　正実（三電）（東海大学二年）

渡辺　隆敏（四機）

▼京葉ブロック

箭内　義光（三化）（東邦電化KK）

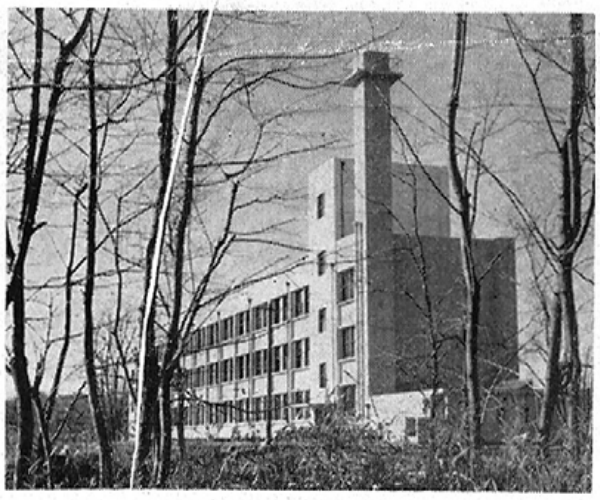
未来の郡山学園

第二工学部次長
東北工高校長　江崎伸一

日大郡山学園の過去の歴史や現状については未だ曾て書かれた事がないので、ここに私の夢を綴るのも、あながち無意味ではないであろう。

十年後の学園の姿は、少くとも現校舎の三倍程の延面積を有する鉄筋コンクリート造三階建の壮麗な建築が森の彼方に林立し、別に鉄骨造の大講堂が魔物の様に聳えさしもの広い十一万余坪の敷地も運動場以外は埋め尽され、周辺には学生生徒の寮が、鉄筋コンクリート造二、三階建に建ち並び、校舎間は、帯状コンクリート歩道によつて連結され、緑の森の木陰に白いベンチと、南北の門は赤煉瓦のアーチの断片が木の間から見え構内には帯状歩道の周辺に沿い各種の街路樹が配され、阿武隈河畔の日大橋付近から望めば、新緑のアカシアの森を通して白亜の殿堂が二十数年の苦闘史を物語るかの様に、中空に聳え建ち、妙なる鐘の音が時計台の彼方から森を縫つて伝えて来る。この学園へ急ぐ教師の人々は、多くは山の手の教師寮から学園キャンパスへ、或はバスで、或は小型自動車で通う人もあろう。学生生徒の一部は引つ切りなしにスクールバスによつて運ばれ、その内の一部は小型自動車で通学する者も出来、キャンパスの或区域へは自動車駐車場が設けられよう。要するに名実共に東北の天地に比類なき夢の殿堂が打建てられることであろう。また或種の講義は馬蹄形の屋外講義場で、カラーテレビによる講演が繰げられ、その日の講義の梗概は瞬時にしてプリント化されて学生生徒へ配布されよう。写真器、ラヂオ等は携帯に便利で精巧に極少化されマツチ箱大となろう。永盛万面の日大橋等は鉄骨トラス以つて架し舗装された道路はアカシアの森の彼方へ消え、学園は夢の様に東北の空に聞き出され、沿道はいつしか店舗が建ち並び、暗く淋しい思い出の付近一帯は学園を中心に地価が暴騰を続けることであろう。果しなく連想される十年後の学園の姿が一片の夢物語に終ることなく実現することを心から願つてやまないものである。

白亜に光る新校舎



二月五日に工事を開始した校舎新築は順調に進み、去る九月十六日落成式を盛大に行つた。工事費約四千五百万円、建坪八二八坪、総鉄筋コンクリート三階建で教室数十四、教職員室及び事務室、その他諸備室を有し、スチーム暖房の近代的な建物が機械実習室並に建築実験室跡に東西に伸びて御定の野に美観を呈している。

今年の就職状況

就職担当　米良邦保先生

本年の就職状況を顧りみると、一口にいつて甚だ五里霧中の状態であつたといえよう。即ち初期においては本年度の高校の就職試験は、文部・労働両省の協定通達により、十一月一日より詮衡開始とのことであつたので、正面の処私共は、前半においては非常に楽観的に考え、後半多忙になるものと推定に基づいて、本年度の計画を立てたわけであつた。処が六月の東京電力をトップに続々と大手筋メーカーが求人を依頼し本年度の就職計画もはや二カ月足らずで急遽変更せざるを得なくなり、それ以後は事業所側から煽られ通しで、八月には採用内定者が出るという始末であつた。

とに角本年度の就職状況を顧えつて見て、まず眼につくのは顧々事業所側が来校の上詮衡という例が多かつたこと、書類詮衡、面接のみで殆んど二次、三次の学科試験がなく即決が多かつたこと、早くから工場実習、工場見学等の名目で事業所側と就職希望者との連絡を密にしたことなどがあつたがその反面今までにない新たな苦労が重つて来たことは否めない。

つまり例年よりはるかに求人が多く、採用内定者が早くから出たため、後半においてそれらの者の中から採用辞退者が続出したことと即決内定者が多かつたため説明やパンフレツトだけで、事業所の内容を雑然と頭に入れ、実際に工場の実態を見ることなしに採用内定者を出したので、それらの者の中にいくらかの不安が残り、あとで改めて工場見学をするという例もかなり多かつたこと。また例年続けて採用してくれている中小企業工場に希望者が出ず、思わぬ迷惑をかけた工場もかなりあつたことなどの現象が起きたが、これらは取りもなおさず、ゴールデン景気の副産物であり、思わぬ重荷を背負い込んでしまつた格好になつたしかし、この様な珍現象はあつたものの、ともあれ十二月十日現在での求人件数四八三社、延べ二千四百十五人という昨年の二倍弱の求人件数のあつたことは喜ばしい限りである。本年度の主な就職先を列挙すれば（除く縁故就職者）

【建築】荒川金属、東北電力、中松組、高橋建設、福田工務店、大成建設、建築基礎設計、踏抜設計、オリエンタルメタル、白井建設、東京鉄骨橋梁、小川組。

【土木】東京電力、大栄通信工業、日本土木機械、読売新聞社、昭和測量、東京鉄骨橋梁、湘南ドリリング、高橋建設、吉田工業。

【機械】富士重工、北辰電機、帝国自動車、日本ピストンリング日本ロール、富士精密、本田技研東北電力、名糖、大正製薬、横浜ゴム、小田急電鉄、ソニー、日曹製鋼、高砂鉄工、東京電力、日産自動車、日軽アルミ

【電力】東京電力、東北電力、岩崎電気、富士製鉄、八幡鋼管、三和鉄軌、上島製作所、太平製紙川口金属。

【電通】大興電機、東京コスモス、日本電波、東邦蓄研電気、岩崎通信機、山下電気、福音電機、精電舎、大栄通信工業。

【工業化学】保土ケ谷化学、佐々木硝子、大興電機、協和ガス、東京軽金属、本田技研、太平製紙ニューロング工業、中外製薬、大日本塗料、名糖、日本ピストンリング、日本ロール、大正製薬、弘進ゴム。

【普通】東京理化工業所、大崎ビニール、連合紙器、北辰化学、山下電気、東京部品工業、方南製作所、東北工業。

などとなつているが、なお各科別の採用内定者数は上表のような結果となつているが、この分で行くと現在未決定の者も二社乃至三社程度の応募中なので、遅くとも来年一月末までには完全就職の見通しがついていて、三月の卒業までには全員希望に燃えて、事業所の門をくぐるという開校以来の新記録が実現するのであり、ともあれ今年の就職希望者は多くの求人の中から最良のものを選ぶことが出来るという恵まれた条件のもとにあつたわけで、その点過年度卒業の者などには、想像もつかぬ高待遇（昨年度より平均一〇〇〇円高の初任給）で入社出来るわけである。

	卒業生	就職希望者数	採用内定者数	就職率%
建築	58	56	46	82
土木	59	55	45	82
機械 1	61	60	60	100
機械 2	62	56	56	100
電力	59	56	56	100
電通	59	55	53	96
工化 1	62	60	57	95
工化 2	61	60	57	95
普通 1	59	32	30	94
普通 2	61	41	38	93
計	599	531	498	93

役員の方にお願い

総会当日は準備もありますので役員及びクラス幹事の方は十一時まで出席して下さるようお願いいたします。

なお今回は役員改選期に当りますので、役員の方は是非出席下さい。

第六回定期総会

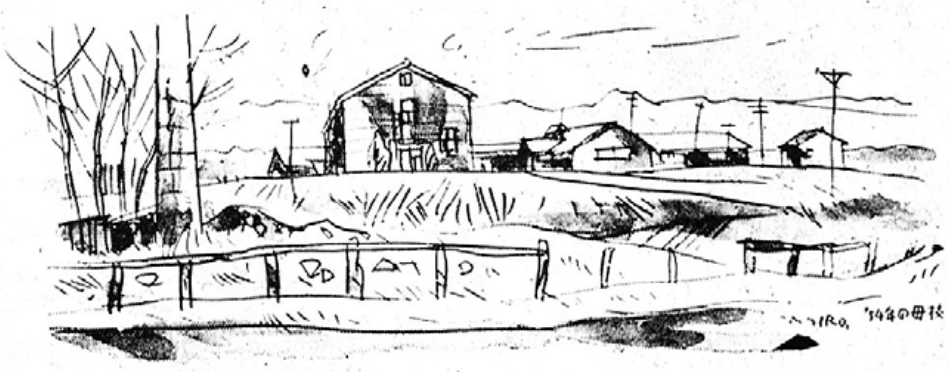
第六回定期総会及び懇親会を次の通り開催いたしますので、会員諸君には多数の出席をお願い致します。

◆日　時　昭和三十六年一月二日〔月〕
正午より三時まで

◆場　所　郡山商工会館ホール（駅より南へ三分）

◆会　費　三百円〔当日持参〕

母校創立10周年に寄せて



創立当時の懐古

西潟孝吉

開校当時昭和二十六年四月二十日入学式を挙げた。当時は六クラス、生徒数三七三人、先生も専任が十五人、第二工学部から兼講の非常勤講師として各専門科された実情で校舎も旧第三号棟だけで充分であった。

生徒の素質　設備の不十分な割合に秀才豪傑が多かつたのは生徒が少なかつた上に学部から助教授級の先生が来講され、その授業も気合が入つたからであろうか。また体育などの用具がなくて当時の担任松下雅邦先生が杉の木登りをやらせていたが、現在の生徒諸君には想像も出来ぬことだ。

朝礼　初代小林巌校長は毎週月曜の朝には必ず訓話をされて深い感銘を与えられた。その一、二の記憶を辿ると。

時間が万人に信頼使用されるのはコマ秒も違わずに時を刻むからである。当校の生徒も全員この心構で勉学し、また卒業後も社会人として努力せねばならぬ。

その他、鉄道のレール、土用（夏休の終業式）に「果樹の芽は来年のなる花芽を準備する」等であるが、その他引例された有益な訓話が多かつた。

創立当初は八坪余りの小事務室が教員室兼会議室であり、教室も合併教室を入れて七室あつた。二代目現江崎校長の遠大なる計画の一端が実現し、十周年の本年九月三階建（鉄筋・水洗トイレ暖房設備の新装）なり、旧四号棟及び三号棟の一部をも併せ使用する偉観は、けだし驚異瞠目に値する。併し今日の隆昌の陰には、創立当初殿備の不十分や合併授業まであえてし薄給に甘んじ一途に学校発展に全力を傾注し、默々として努力された当時の教職員の献身的土台石のあつたことを見逃してはならないと思う。

（母校事務職員）

母校の初代校長小林巌先生（75）は、現在なおお元気で第二工学部図書館長を務め、数学・独語の教べんをとられる傍ら郷味の山歩きを続けておられ、また毎週仙台の自宅から通勤しておられます。

学生歌

詞・勝承夫
曲・平井康三郎

①若い歓智の花ひらく
青春の頃アカシヤ林
あこがれの雲赤く
映ゆる宇津峰
ああ美わしの学舎よ
常に尊あれ。

②花の未来を阿武隈の
流れに語る若人我等
郭公鳥高啼けば
胸もおどるよ
ああ夢多きエンジニヤ
常に尊あれ。

③金の葉が散る
アカシヤの
木蔭を行けば涙も光る
純情の日を三載
送る学舎
ああ仰ぎみる我が母校
永遠に栄あれ。

私の職場 —③—

パラマウント硝子工業KK

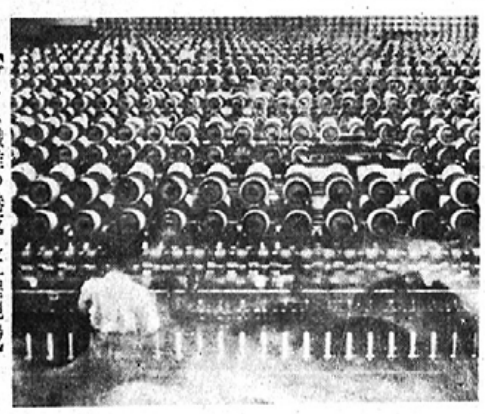
工化七期　野内裕元

時代の要求に応えた
—グラスウール製品—

"パラマウント硝子"、旦工の卒業生は、ほとんどが福島県人であるので、何を作り、どのような会社であるかは知つているであろう。

「給料が安い」

「体がチクチクして、手足にガラスがささる」これは、私が就職を決定したときに、級友のいつた言葉である。しかし、何を作つているのかと聞いたら、ハツキリとした答えを得る事は出来なかつた郡山市民の半数が知つているだろうか。また同級生の中にも知らない人が多いと思う。残念なことである。ところで、今日の電気、建築業界で多く用いられているグラスウールを御存知ですが。一般の人は単に硝子会社であるから、屑ガラスを集めて、ビン、コツプなど器具でも作つているのだろうと思う人が、大部ではないでしようか。しかし、ガラス器具は全然作つていないのです。廃ガラスを入れるにしても、ガラス店より買うのですから。今作つているのは、グラスウール（ガラス糸、ガラス綿）です。硅石、酸化ナトリウム石灰の三成分を主体とし、その他に色々な原料を調合し、大きな炉で千二～三百度の高温で、小穴より高圧エヤーで吹きとばし、綿状にするのです。その綿を使用目的に応じて、色々な接着剤（のり）をふきかけて成型するのです。またその原綿のままで使用される事もあります。綿は羊毛のように細くやわらかいものもあるのです。



【ガラス繊維の巻返し工程現場】

ところが、この綿は一般に使用されているのですが、皆さんの毎日の生活の中で目に入るでしようか。

製品を単独で用いる事は少ないので、私でさいもどこに使用しているかわかりません。皆さん家庭で使つている。電気冷蔵庫の仕掛を知つていますか。冷蔵庫はグラスウールを主体として、冷却を保持しているのです。

その他に航空機、造船のエンジンの防音、また、皆さんが毎日乗つている自動車のボデー、屋根等にも用いられているのです。建築業界でも天井や壁に、水道やガス管の保温、保冷筒として、かず知れなく目に見えないところに用いられているのが特長です。

アメリカでも、第二次大戦からグラスウールの発展はすばらしく建殿材料を主点として、日常品にも鉄と肩を並べて発展して来ました。O・S硝子会社は、このグラスウールの発展を促進させているアメリカの大会社であります。

日本のグラスウール業界も、数年前まで一社であつたのが、今日では、数社の出現で、ガラス業界の市場も競争がはげしくなつて来ました。

ガラス繊維業界の発展により、今日では、ガラス綿特有のチクチクするのはある程度なくなつた。

当社も、来年は総立十五年、会社の殿備も変つて来たが、いつになつても変らないのが「安い給料」これが先輩の話しである。

日工出身者は、二、三十人と圧倒的に多く、他の高卒者にまけずに、高熱作業の三交勤で、夜でも昼と同様に元気に働いている。その余暇を利用して野球、ソフト・バレー・卓球・山岳等のクラブがあり、運動を通じて健康と親睦を増進させている。

野球・卓球・ソフトは、郡山市内でも上位に進み、山岳部は、皆さんを励ましてくれた安達太良、磐梯山を主として、また県外の山々まで足をのばし活躍しているのです。

卒業、そして入社、一年に濁たない私にペンを取らせるのは、どうかと思う。

では、この辺でかんべんして頂いて、次の人にバトンをゆずる事にします。

あの頃のこと

高木昭

昭和二十六年、東北工高が第足した年の六月に学部へ着任した私は、第一回生である一年生の教壇に初めて立つた。教師としての一年生が、出来たての学校の一年生に授業をしたことになる。今から思えば、自分では懸命の積りだつたが、色々と到らない点が反省される。東京からやつてきた私には校舎は元兵舎のボロであつても、その環境は素晴らしく見えた。今より緑も多く、桑園のように小鳥がよく囀り、林の中から合唱が聞こえたりした。今では生徒数も増えて鳥達もびつくりしているのかカツコウの鳴声もドモリがちで、二、三羽しか鳴かない様だ。当時初夏のウトウトする様な日和の教室では、さわやかな微風と共に忍び込んだアカシヤの花の甘い匂いが鼻をくすぐり、小さいくせにバカでかい声でカツコウがいきなり窓辺に鳴くとびつくりして飛び去るので講義をやめて眺めていたこともあつた。一回生が三年になつた時、初めの二年は講師として授業時間にだけ接していた生徒達であつたが、この一年だけ担任教師として毎日お眼にかかることになつた。色々と問題を起す組で、何か事件が起きると「また化学か建設だな」とよくいわれ、他の科や先生方に随分迷惑をかけて、頭をなやませてくれた。それでも、おとなしいいい子供達よりやんちや坊主のいる自分の組は好きだつた諸事のんびりしていたが、先生達も若く教育指導面での論議もくらくなるまで教員室で戦わせた。また先輩のいない生徒達は発刺として陽気であり、いたづら等も、にくめないものだつた。私の指導方針として「自分の行動に責任を持つこと。常に自分の行動は反省し人に後指をさされる勿」ということを常にいい聞かせた。長髪禁止令に対する生徒側の反対についてまず組全員の髪を刈らせ、校則に従つた生徒としてこの問題につき生徒側の主張、学校、PTAの意見、私の意見を述べ、討論したこともあり、よく納得してくれたまたある先生が授業中に暴言をはいたと大騒ぎになり、その先生を連れて来るのだといきまいている生徒達に、自分達の非なる所をはつきり自覚させ、その上でその先生の所に行かせた。その先生は頭をかいて自分の行き過ぎた点を認め、お互いににつこりと笑つて丸く納つた。自分の非を見ずに相手の非を攻めても自分の考えを通すことは出来ないことを教えた積りだつた。自分の指導の効果が目に見えた時は嬉しいものだ。私は生徒をなぐらないことにしているが一度、退学にしても良いと思つた程の生徒に雑布かけをさせたことがある。当時下足禁止であつた校舎の一、二階の廊下を全部であるなぐられても敏ほどにも感じられないような頑丈な男であつたが、体刑を加えられたと後でうらまれては逆効果とばかり私も一緒に馬力をかけて雑布がけをした。その生徒の前でへこたれる訳にも行かず、また生徒の方も休む訳には行かず、終つた時には二人とも口も聞けず、「帰れ」と思いきり生徒の尻をたたいた積りの手が、いうことをきかず、ぺたんと妙な音を立てたのが妙に印象に残つている翌日から人が変つたように真面目になつたのを見てほつとした。強行軍の修学旅行で二見ケ浦に疲れ切つて到着した生徒達が、他高校の先生、生徒達が一緒に酒を飲んでいたり、無軌道な事をしているのを目のあたりに見た夜、座談会をしますからと生徒に呼ばれ広間に行つてみると床ノ間に一升ビンがかくしてあつた。俺らだつて少しは羽をのばしたいんだという様な目が私の顔を見つめ何をいいだすだろうとじつと待つていた。疲れた連中の気持に無理はないと思つたが、たちまちどなりつけて酒屋に持ち返らせ就眠剤としてブドー酒を飲ませ、座談をして寝かせた。すなおに聞いてくれた生徒達が可愛そうになり、色々と考えさせられた。いろいろと思い出すことが出て来て次々と書きたくなつてきたけれども、紙面の都合と原稿取立てに来ている幹事君の前で何をいおうとしているのか、まさに尻切れとんぼになりそうだが昔のことは皆良かつたと思うのが人の常、私も年をとつた（？）せいかその様に思い出される。

教師生活十年もすると今までの教育の仕方が果して良かつたのだろうか。精一杯の積りだつたが、より良い法はあるだろうかと種々考えさせられ迷いが出て来る。卒業生名簿を見ていると一人一人が立派にどんどん成長して、それぞれの持場で働いている顔が浮んで来て十年一日の如く大して進歩しない自分が何か取残されて行く様な気がして深く心に感じ入る。諸君にはどんどんと伸びて欲しい。教師はその踏台にあまんじる。いや私も成長したい。一緒に励まし合いながら人生を乗り切りたい。元気にやりましょう。身体に気をつけて。

（尻切れとんぼを陳謝す）

工化科第一回生担任
（現在日大第二工学部講師）

高橋良孝先生

大正九年九月、日本官立商船学校卒、日本郵船入社、朝鮮郵船をへて終戦後安積郡郡山商業中学校教諭となり、昭和二十九年七月同中学校退職後母校教師に任ぜられる。（数学担当）昭和三十五年一月二十二日肝臓硬変症のため死去・享年六十七才。

小林恭子先生

昭和三十年、郡山女子短大卒後安積高等洋裁学院に入り、三十二年同院卒と同時に母校事務兼家庭科を担当、女子生徒のため大変力になつていたが、昭和三十五年九月六日、中枢性呼吸麻痺のため死去、享年二十六才。

大竹義吉先生

大正五年福島県師範学校卒、若松市第三小学校訓導、磐城高等女学校、静岡県清水市庵原中学校、安積女子高校教諭をへて、二十九年母校数学講師となり、三十一年日大第二工学部事務主任に任ぜられ、母校講師を兼ねていた。

三十五年十一月十五日脳溢血の再発のため死去、享年六十四才。

同窓生数（　）は女子卒業生

科別＼期生	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生	6回生	7回生	各科別総数
建築科 1	53	48	58	45	36	43	(2)59	535
〃 2				49	32	51	61	
機械科 1	47	44	56	46	46	58	64	616
〃 2		42		49	51	55	58	
電気科 1	58	47	53	49	53	56	58	693
〃 2	33	43	51	46	48	54	54	
工化科 1	45	37	37	39	34	39	57	390
〃 2						38	54	
普通科 1	39	36	35	36	53	58	41	374
〃 2						(9)49	(3)34	
計	275	297	290	359	335	501	551	2.608

在校生数（35.12現在）

科別＼学年	1	2	3
建築科 1	60	64	58
〃 2	57	49	56
機械科 1	58	52	61
〃 2	56	54	62
電気科 1	58	66	59
〃 2	56	58	59
工化科 1	57	53	62
〃 2	57	58	61
普通科 1	48	54	59
〃 2	47	55	60
計	554	563	597
総計			1.714

人間はなぜタバコを喫うか

二期工化　高原広康

◇タバコと生活

人類は何故タバコを喫うのであろうか。「楽しみの為」というのは能のない答えである。

「喫煙はバツカスが酒をつくつた以後に、人類が発見した唯一つの新しい楽しみなのだ」ともいう。

人間が労働するのは、労働せねばならないからだ。また好きな物を食べ、飲み聞き、嗅ぎ、そして喫煙もする。喰べる事等は、昔から本能的な欠く事のできないものであるが、音楽、舞踊、アルコール、タバコ等は個人の好みによる娯楽であつて、楽しみの為に行われているものである。

現代が喫煙の世であるというのは、男も女も喫煙を好むからである。そうでないとしたら、地球上の成年男女、及び子供一人当り年々一ポンドを超えるタバコを消費するのはどうした訳であろうか。

この問題について、世上一般には幾多の説があるが、その中に次の様なものがある。

◇タバコの存在理由

タバコをのむ習慣は子供の頃の自己満足の習慣の継続か、もしくはそれへの復帰か何れかなのでその耽り方が普通であるか、常軌を逸しているかを問わないのである。精神分析学者は、問題はすべて性に帰するとの彼一流のドグマを振りかざして、こういうのである。

食塩を過度に使つたり、胡椒、茄子、酢を使つたり、また肉、コーヒー、茶を絶りなく使うと神経過敏や、心の落着かぬ状態になるこういう物は身体の器官にいろいろな興奮状態をつくり出すのである。それを救う為に麻酔剤が頼みの綱とされ、タバコが用いられる。世界のありとあらゆる病気は誤つた食物摂取から出ると考えている栄養学者はこの様なことをいう。

近代文明生活の転変定かならぬ中にあつては、仕事の上でも、勝負事の上でも、緊張の極端から極端に走るから生理上の緩衝物を必要とするのだと神経学者はいう。神経系統が抑圧されている時には ニコチンが刺戟を与え、興奮した時には鎮静剤の役をする。この鎮静する効き、刺戟する効果よりも著しい。それ故、今日のテンポの早い生活に由来する興奮、緊張、過労がこの種の鎮静剤を必要とするものである。

タバコを喫む習慣は正しく社会的習慣であると社会学者は主張する。流行が一旦根を下ろすと、どのようなグループにあるにせよ、大部分の人を巻込んでしまう。

科学や著述にたずさわる男女で喫煙の習慣を、原罪の為とか、やらなくて放つておいてよい事をやりたがる人間共通の慰かさの為だとかに帰する者は少くない。

◇タバコと本能

文明人は原始時代の祖先に比べれば、食物を求め歩く動物的飢餓感から解放されはしたけれども、その緊張の中には味わつたり、噛んだりする物を求める本能的な渇望、いわばこの飢えのおぼろな再顕を留めている。その上指揮をなめたり、他人の唇に接吻をしたりする事に現われているように、口の性感的な機能が問題となる。味わい、噛む感覚に表われているあの食物に対する基本的な飢えと、接吻したいという衝動にあらわれている性に対する錯綜した飢えとを結び合せてみる時、パイプの柄をしゃぶつたり、葉巻のかなり辛い一端を味つたりする楽しみに対して、もう一つの精神分析学的説明が得られるのである。これは発生心理学をいろいろ臆測して喜びを感ずる人々を全く魅了する答えである。というのはスタンレー・ホールのいう事が正しいとするとガムを噛む事、タバコ、楊子を使う喜びがその昔、人類が人間の本源的な感覚を満すため木の皮の下にいる虫を見付けて喜んだり、ライオンに屠むられた動物の死骸を見つけて喜んでいたあの飢えていた時代への復古的な再顕である事が、いつか示されるであろう。

喫煙は密閉されたエロテイシズムには結構な吐け口であり、正常の人々には生命に対する健全な反動であると、すべてをこの事に帰結するのが精神分析学者の立場としての主張なのである。事実、この派の心理学者は節制家などという者は、むしろ懐疑をいだきながら、肉体上精神上の何らかの動揺に苦悩している者だと、見做している稿である。

飢餓説も性感説も共に、我々が巻巻、パイプ、両切タバコを唇の間にはさみがるのは我々が赤児のたからなのだとする発生学者の推測と結びつく。

感覚から忘れられていたその当時の事が、喫煙をしている中に代りの物によつて復活させられたのである。

◇タバコと身体

更に医学上の見解としては、我々は不愉快ながらタバコを用いるが、一旦タバコに対する耐久力が出来上つてしまうと、我々は始めの頃感じた嘔気を喫煙によつて圧倒される気分を快よく思うようになる。それは丁度、我々が雄々しくも毒矢を構えた敵の攻撃に抵抗するようなものである。

我々は苦悩を与えるいろいろの症状を、いつも微々たるものにすぎないと思つている。恐らくは感覚していないのかも知れない。自然から授かつた防禦機構が、素早く行動に移つてその症状を抑えてしまう。そうすると「快よい」と感ずるのである。何故ならこの勝利、裏面的な勝利の中にこそ喫煙の楽しみがあるのだが、この論は精神分析学者の論と実によく合い、正しく決定的なものとして世にひろまつている。

食物の効用弊害などは、何故男性、女性は喫煙するかという問題に対する一般的解答には先づならない。しかし、タバコが消化に及ぼす生理学的効果は重要な問題である。

タバコは稀に喘息の治療薬として用いられる以外は、嚢局処方箋にはもはやその地位を保つていない。

タバコについての医学的見地から見て、人間が喫煙するのは生活上の摩擦を軽減する為であり、また一種の第二の性格即ち、いろいろの仕来りを忘れ、またいろいろの制限や拘束のある文明生活の圧力、緊張からくつろぐ手段として素朴な享楽に身をゆだねる安易な生き方をする性格をつくり出す為である事を知つた。タバコは正常の方法ならば休息する事によつて得られるくつろぎの状態を人為的につくり出す事のために必要とされている。これはアルコールの為の古臭い申訳のように聞える。そして事実タバコは大部分のアルコール飲料が麻酔剤であるという点においてアルコールと似ている。

両者の使用に反対して、衛生改革者は、酒もタバコも凡そこの世において何の役にも立たぬと強調する。

タバコが廉価にして軽便な形で而も常に手許に用意されているやうらして我々は、人間が喫煙するのは生活上の摩擦を軽減する為であり、また一種の第二の性格即ち、いろいろの仕来りを忘れ、またいろいろの制限や拘束のある文明生活の圧力、緊張からくつろぐ手段として素朴な享楽に身をゆだねる安易な生き方をする性格をつくり出す為である事を知つた。タバコは正常の方法ならば休息する事によつて得られるくつろぎの状態を人為的につくり出す事のために必要とされている。これはアルコールの為の古臭い申訳のように聞える。そして事実タバコは大部分のアルコール飲料が麻酔剤であるという点においてアルコールと似ている。

両者の使用に反対して、衛生改革者は、酒もタバコも凡そこの世において何の役にも立たぬと強調する。

タバコが廉価にして軽便な形で而も常に手許に用意されているやわらかな鎮静剤として、人為的休息の上に常に、心を煮くものを与える。

これが結局、健全であるかどうかは後程考慮する事にして、ここでは手取早く、一時的に苦痛を止めるものや、また我々の職務上執務時間中懸命に働いている間、休息を我々に与える事が出来る物価を要求するのだというだけでは、何故喫煙するのかという問題に対しては、一方的な答えなのであると指摘するだけに留めておく。

◇タバコはすたれない

どのような形にせよタバコの使用が普及し、また永続してゆく上に、流行が強力な力である事は余りにも明白で議論をする必要はない。然し喫煙は衣裳のスタイルの多様性とは凡そ似ていないものである。人間の生理的、また精神的習慣に非常に深く根を下ろしているので、単なる流行の型のみでは分類できない。

喫煙は抑圧感を初期の中に、精神的に救い出し、我々に一種成長した感じを与え、また何かをかじり、かみ、味わいたいという自然の器官上の飢えを満足さす助けとなる。タバコは文明社会の食事によつて苦立つている神経にやわらかい麻酔剤として作用し、食後の一服は歓迎されている。

タバコは繁忙極りない男女が緊張した日々の間、一時的の慰安を求めてとんで行く人巧的な休息の状態をつくり出す。

「動くアクセサリー」とは現代用語のキャツチフレーズになつている。現代社会に生きる一つの喜びは喫煙である。

（日本専売公社中央研究所生物理化学研究部）

民家に憑かれて

一期電通　広長威彦

私は現在民家に憑かれている。近年防火対策上とか維持費の困難といつても別に建築学的にどうそれに近年は至る処ダムの建設等ういうのではない。その素朴な美によつて取壊され、年々その美しさに惹かれているのであるが、さが減少しつつある。それも山深い古い民家が少くなくなつていることは、いわば古い純日本的な良さが失なわれているようで、自分の故郷がなくなつてしまうような寂しさを感じている。

そういう気持が一層民家に対する執着となり、世が近代化されるとなお更に古いものの良さ、美しさに惹かれる。

民家に興味を覚えてからというもの、どの土地へ出かけるにも自動車、汽車、単車と乗物に乗つていても、歩いていても先ず眼に入つて来るのは民家であり、どんなつまらない山村へ出掛けても退屈というものを感じない。

これらを建築様式とか構造とかは別問題で、これらの研究については数多くされているので改めて調査をするには至らない。

現在の処は、ただ私なりに観て感ずる美しさ、朽ちた宇葺民家から滲み出る庶民的な生活の匂いがたまらない。そして日本美の再発見でもしたような気持、そういつたものを自分の眼で確め、そして撮し、画帳に記録することで、満足感を覚える。一つの趣味としての物好きからなのである。

山村の聚落を歩いていて、その地方には珍らしい造りの家屋や美しい屋根などを見つけた時は理想の孤人でも見い出した様な錯覚に囚われてしまう。この凝ようはこの夏は、遠く々々飛騨と越中の国まで足を伸ばしてしまつた。そして庄川流域に点在する平家落人部落といわれ、大家族制度の名残りである切妻合掌造りの民家を飽きる程どカメラに収め、キヤンバスに収めて帰つた。他に山形県の田麦俣、奈良県の十津川地方、大和路の民家、南部の曲り家、それに高千穂の民家と是非見ておきたい処は数々あるが、中でも合掌造りの民家には最大の憧れであつたそれが急に思い立つて出掛けてしまつた。

秘境といわれたこの地方のことと資料だけは充分過ぎる程ど集め予備知識を得て乗込んだのだつたが、夢は現地に近づくにつれて少々破壊されてしまつた。あまりにも開け過ぎてしまつているのである。要するにダムの所為である御存知御母衣ダムの建設に当つては付近の文化財的数々の合掌民家が取り壊されてしまつたのである何年か前のこの部落の写真から受ける印象は真に“陸の孤島”を感じさせ、秘境というに相応しく、素朴さと部落が醸し出す独特の純粋な日本美を感じ、これらを築した当時の匠の旁れていたことは、日本建築の粋りといえよう。それが一戸残された大合掌民家の前をダム建設のダムプカーが砂塵を上げ、地響きを立てて絶えず往来する現状で、近代文明はこの静かな山峡の部落の平和を破壊していつたのである。先祖から受け継がれた尊い伝統は二十世紀末になつて絶たれてしまつた。住み慣れた土地を去る心境は山積された金では到底補えないものがあり、電源開発の犠牲となつて涙を呑んだことであろう。一昨年奥会津の湖底に沈む前の田子倉部落を歩いて廃屋や移転し終つた家々の炉跡などを見た時の郷愁めいた感慨を抑いた心境を再び以つたのである。

これら山峡の部落を歩く良さは土着民に接することによつて一層印象深いものとなり、見知らぬ旅人を温く歓待してくれる山村の純朴な人々から真の人間性が感じられる。

越中五ケ山では合掌民家と分散場と二泊したが、物に換え難いうれしい気持である。宿泊した民家は部落でも裕福な方ではあろうが電化品とタイル張りの風呂に折角ここまで拵いて来た古い民家のイメージが半減し飛騨白川村では合掌民家の屋根にテレビアンテナが高く威張つて少々興ざめだつたが今また余計に破壊されたような気持だつた。外観だけは昔のままであるが、やはり中味は現代生活様式には不便を感じるのは当然のことながら、住民にしてみれば現代から置き去りはゴメンであろう。外形も年々変貌し、近い将来文化財指定の家屋を残して消滅してしまうというに至つては寒心に耐えない気持である。指定の民家が一戸・二戸と残つて見た処で、それは単に過去の存在を意味するだけで、あの異様なまでの日本離れのした壮観さは同じことが出来ないだろう。

住民にしたところで祖先の残してくれた尊い遺産を改造するのは好まないに違いない。現代に生活するには住み慣さや維持の関係上生活様式を変えなければならないことは必至である。やむを得ないということだけでは解決されない問題が多くあるようである。これはこの地だけの問題ではない。宇葺家屋全般に共通することであろうが、この様な古い日本を後世に残していきたいという気持は民家に興味を持つ者にとつては共通した意見であるに相違ない。

今後も務めてこれら民家を多く訪ね、出来るだけ記録に留めて置きたいと思つている。

石井重善君(電)の重傷によせて

——安子ケ島駅にて列車脱線——

二期機　川前善輝

昨年の暮もおし迫つた十二月十八日の事だつた。僕は何時もの様に元気に出勤して乗務員室に行き始業の支度をしていると間髪が慌てて跳んで来た。「安子ケ島駅で列車が脱線し石井電車君が足を切断してしまつた」との知らせに僕は一瞬驚きのあまり何もいう事が出来なかつた。そんなバカな事があるものか。夕べあんなに元気で忘年会の話や結婚の話などをして別れてまだ十五時間と経つていない。僕は夕べの事を一つ一つ思い浮べ、元気な彼の顔が瞼に浮んだそして自分の片足がなくなつた様なショツクを受けた。そしてこれが悪夢である事を祈つた。折からラジオは石井機関助士右足切断で重体のニュースを告げた。当直助役は今日の僕の乗務を取り止めて石井君の看病に行く様に手配してくれた。

彼は郡山の太田病院で手術中だつた。昨夜まで五体立派にあつた親友が今は悲惨な姿となつてベッドに横臥わつていた。でも本人はしつかりしていた。彼の父が入つ「、“私がついている”と、婚約者」一面に脱線現場の情景が出て車輌が吹つ飛んで、これで乗務員の命があつたかと思わずにいられない惨状だつた。命があつた事が不幸中の幸であつた。

夜中に眼を覚ました彼は事故当時の様子を語つてくれた。安子ケ島駅に入る時、速度が高過ぎて早く止つてくれと機関車の上で足をじたばたさせているうちに安全側線を通り越して砂利の中に突込んだ。機関が地面に潜くめり込んだため後部の貨車がドシンドシンと轟音と共に突き当つて来た。その瞬間「シユー」という物すごい勢いで蒸気が噴出して一面何も見えなくなつた。ゴロゴロと体が転げ落ちた。夢中で起上つたがバツタリと倒れた。そして自分の足を見て驚いた。右足がない⁉ 真赤な血と肉が飛び出ていた。「俺の足どこへ行つたー」と叫んだ。機関士が来て手拭で血だらけの足と手を血止めさしてくれた。寒風の中を消防車で病院に向つた。

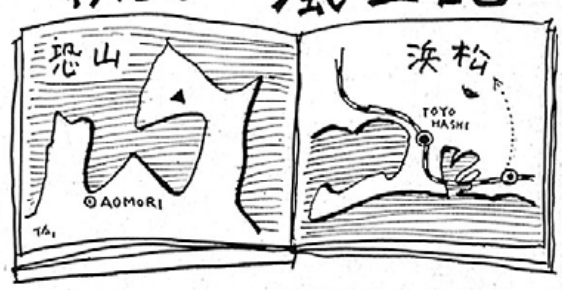
右足切断と左手も人差指切断、薬指と小指の骨が砕けるという重傷だつた。

婚約者は「どんな事があつても石井さんを幸福にさせて上げる」と日夜懸命の看病を続けた。その甲斐あつて彼は日一日と回復して来た。今では義足をかけ、指もきく様になり、十月中旬より郡山機関区の事務の方へ勤務する様になつた。そして再起を奮して懸命に努力している。

彼の行末に幸あれと祈る。

【編集部より】一期電力の石井善重君が前記の様に重傷をされました。遅ればせながら役員一同深く御同情と御見舞申上げます。会員諸君も是非激励の手紙で石井君を励まして下さい。なお、宛先は郡山市東宿郡山機関区内です。

わたしの風土記



写真は　恐山(大尽山)と宇曾利湖（極楽の浜附近）

山猿遠州行

一期工化　柳沼力夫

一匹の山猿がなつかしい東北の山々をあとにして、一路浜松へと出掛けて行つたのは、すでに二年前。「温つたかくて日本一住み良い所だんべー」と、そのかど出を祝して乾杯にわき立つたものでした。浜松を南下して十キロ余り弁天島の隣りは浜名湖の湖畔に建つ河合楽器新居工場が、その勤務地でありました。見渡せば南に遠く富士がかすみ、東には遠州灘の白波が眺められる大変に景色の良い所でした。

初めからこんな時候に夏の話を持ち出して誠に恐縮なんですが……何しろ工場と湖とは目と鼻の先でしたから、会社がひけると課長はじめ部長までが我々と一緒になつて海水パンツ一つで汗を流しにトコトコかけ出して行つたもんです。午後の五時頃といつても真夏の陽は未だ高くギラギラと照りつけておりました。波の間からは白いしぶきと真黒い顔とが、あつちにもこつちにもプカプカと浮かんで見えて、東海道を走り行く車も「一時停止」の願でした。

やがて真赤に空をそめて陽が西に傾むく頃になると一日の漁を終えた漁船が、ポンポンと音を響かせながら港に入つて来て、我々の入浴？も終りとなります。工場から東へ五百米程行くと、雄大な大海原が横たわつております。そこから北側には日本三大砂丘の一つといわれる中田島砂丘が拡がつています。日本にもこんな砂丘があつたのかと山猿驚嘆の一幕でありました。「松風の音と寄せては返す磯の波」とがいとも妙なるハーモニーをつくりながら砂浜の上をたわむれている静かな春の夕暮れ砂浜に独り居るなんて――風情はチヨツト、オツなもんでしょう。

さて浜松の街を歩いていると、歩いているのが恥かしくなる位（大げさかな）ポンポン（オートバイのことですな）が沢山走つております。ポンポンのメーカーがズラリ並んでいるせいでしようか。ミメウルワシキ年頃の女性などが「ツン」とすましてまたがつているのには少々驚ろかされました。これらのポンポンの一群が一旦郊外の東海道に出た時は、どういうことになるかは、すでに識者の知る所。松並木に沿つた直線国道を自他共に許す所の雷族と化して疾走するのであります。乗つている本人はすましたものですが、見ているこつちが思わず手に汗を握つて（モツトトバセーなんていいません）しまいます。

郊外には航空自衛隊浜松基地がありますが、そのせいか市内には隊員相手と思われるいろいろな見世物とか一ツバイ屋があります。私と同期入社生の一人が浜松名物の或る見世物？に惹かれて、遂に一度位は通つたものでした。所が基部長がこれまた物好き？な人で度々行かれるという噂。我々が予期していたこの御両人の顔合わせが実現したのは間もなくでした。（人が悪い）。気が付いて見ると隣合わせに座つていたというのです。この御両人、とうとう終りまで知らぬ振りをしていたというのですからオカワイソウでした。この話をすると、部長は急に話せる部長となり、我らの切り札となつたのはいうまでもありません。

さて、とりとめもない様なことばかりを書いてしまいましたが、（何時もそうですが）温たかい浜松は確かに住み良い所であると思いました。しかし、しかしですよ。山猿には手のとどえる雪の日とコチコチに凍りついた氷の朝もまたなつかしく想われ、やはり東北には温国では味わえぬ風情があるものと強く感じたのでありました。

地獄極楽見てある記

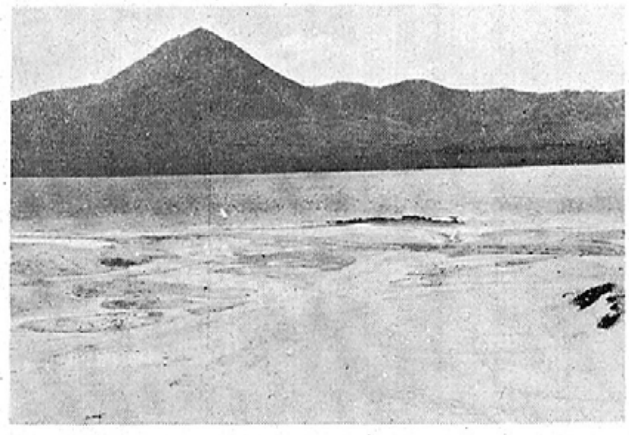
七期電力　西山武

青森県の地図を広げると、マサカリの形をした下北半島に小さな湖と山が見られる。ここは、恐山といい慈覚大師のひらいた南部の霊場とされている。この湖（宇曾利湖）一帯は恐山寄生火山群による大カルデラの内部に当り、外界とは遮断された別の世界である。

去る五月、同じ職場の伊藤君（同期生）とこの地を訪ねてみた。

大湊駅より山道をテクテク歩く事三時間、道の両側に居並ぶ地蔵尊を数十体数える頃、道は急な下り坂となり、硫黄のむせる様な臭いが鼻をつく。もうこの辺は火口壁に囲まれたカルデラを形成する一部である。やがて視界に湖水が広がると流黄の臭いは一層激しく周囲の山々は黒く湖水に影を落し霊場としての雰囲気は頭まる。

湖水からは三途の川が流れ、そこには太鼓橋がかかつているが、罪人はこの橋を渡る事ができず、川のたもとで懺悔の涙を流すという。



針の山、寄生道尊のいかめしい名のついた八大地獄や極楽の浜などと呼ばれる間けつ泉や噴気孔が見られる。この辺の地名はすべて仏道に関係のあるものばかりである。

最後に、今は曹洞宗の寺院となつている慈覚大師の開いた菩提寺地蔵堂をたずねてみた。境内は季節外れのために、ひつそりとして只数体の地蔵尊だけが気のせいかうらめしそうに我々を見つめていた。しかし、ここも六月の開山と共に昔に劣らぬ参拝者が訪れ、坐子の祈りにより今は亡き親や兄弟子供の他界での生活様子を知り感激の涙を流すという事である。

たとい宇宙ロケツトが月の裏側を覗き見する程科学の進歩した今日といいども、人間の心の奥深くには、科学の力ではどうする事もできない何ものかが存在していると感じさせられた次第である。

かくて、信仰の山・恐山は今尚数多くの参拝者でにぎわつているのであります。

（青森県野辺地地蔵中継所勤務）

『新ぶら』

五期普通　田崎亮樹

八月のある日、熱かつたので夕涼み旁々新宿に歩を向けた。気の向くままに、とある喫茶店に入りうわき心もてつだつて見も知らぬ女性の前に席を取り、なにげなくチヨロリチヨロリ、ガラの悪そうな？ヤツに座わられたと見え、あわてて席を立つて行つたが、すぐに戻つて来た。

「どうかいたしましたか？」とはたずねなかつたが、その女性ノタマワク「実はお金を落してしまつたので、少し貸して戴けませんか？」バラの様な唇のこの女性、はずかしそうに一口、三口。

まかしとけとばかり聖徳太子を渡して名前も聞かず「何かの縁、お食事でも……」とさそえば「イエス」とついて来た。

当然そこでも紳士のおごり、帰りの電車代まで心配してやつた。別れ際には「住所をおしえて下さい」といわれて「おひまな時にお電話下さい」と名刺をわたしてやつた。

それから三日たつても電話もなく、一向になんの連絡もなし。

その事もとうにわすれた頃、一週間はたつたと思らある日、その女性から手紙がとどいた。

中には聖徳太子と前日のお礼の文面だけで「この次の日曜日に有楽町で逢いましよう」などという事は一事も書いてなかつた。

秋葉の集い

関東副支部長　会田照男

写真は　第三回大会懇親会風景

秋葉原駅ホームに集合した我々実行委員の者は、そこで二組に別れて、一方は上野カイワイに買出しに出かけ、もう一方の組は直接会場へ向かつた。正午近く買出し部隊が帰つて来て、そのオミヤゲに舌つづみを打つた。それは鶏肉のクンセイであつた。イカのクンセイと味はそんなに大変なかつたが珍味であつた。

この様にして会場で一笑いがあつたあと、会場のオバサンとの打合せも済み一段落した時にもう一番のりの者がいた。受付で出席者をメモしているうちに出席者は廊下で大声で雑談が始まつていた。

「ヤーしばらく……今どこにいんだ？」イナカのなまりもここでは自然に聞える有様である。

ひとかたまり、ふたかたまりと出来て、声は大きくなるばかりであつた。この大声にまじつて本部よりワザワザ出張して来た三名の役員をみつけて我々も、皆と同じようにひさしぶりの対面に談笑を上げていた。

「オイ！　そろそろ始めよう」「そうだナそうしよう」というわけで会場にセイぞろいして早速ビールの栓をぬいた。「乾杯」「乾杯」。「今日はまたずいぶん多いナ」という話がとび大会が開催された次第である。

「今日は皆さん、遠路御くろうさん……では早速……」というわけで、一般締過報告の後、支部長報告、一般会計報告、本部代表の話があり議題に入つた。

まず役員、ブロック委員の改選次に関東支部のあり方等につき討議した。議事も終り、皆ビールのアワで紅ちようしながらワイワイガヤガヤ話をしながら、江戸寿司にありつき、皆が皆天下泰平な顔をして他人と話合つていた。場所を忘れ、ただ話しながら笑つてばかりいた。

本当になごやかなふんい気である。「コレダ。これが本当の友情の和だ。この和をなくして友情はないのだ」と、自分にいい聞かせながらビールをのみ「フツ……」と笑いをうかべたのは私だけではなかろう。

午後一時に開かれて、もう三時間を過ぎた。そのころから二人へ三人へりしながら秋葉の街に消えて行くのを「オーイ一寸待つた……」と大声で呼び止め記念写真を撮つた。校友会館のオバサンにカメラのシヤツターを切つてもらい、そのしぐさに一同そこでドーツと笑い、会場にもどり最後のビールに舌つづみをうつて、三々五々と帰つて行つた。母校の歌、日大校歌、若きエンジニア等の歌をうたいながら……。

その後の足どりは知らないが、適当に街の灯に入つて行つたようである。

「アー終つた。皆さんどうもゴクロウサンでしたと一言いつて皆と別れ、今日の大会は昨年にもまして愉快であつたと思いながら電車に乗つた。

（山へ戻つて来た山猿の回想より）【日大第三工学部助手】

芝部集い

年々さかんにナりにけり。

（日本鋼管勤務）

× × ×

× × ×

三期建設科卒業生に告ぐ

来る一月二日午後四時、同総会総会終了後に、郡山駅前の料亭湖月に於て同級会を行うことになりました。

出席希望者は柴橋平弘（郡山市阿弥陀町五九）、または安藤栄一（郡山市山根町四五）まで連絡して下さい。多数出席する様お誘いを願います。

柔友会発足す

【雲海】　飯豊山頂附近より吾妻連峰を望む　撮影　鵜川丑吉先生

柔道部O・Bが多てから考慮中だつた相互の親睦と母校柔道部の発展を期する柔友会を去る一月七日に星君（二期建設）横田君（四期建設）を中心として郡山市内上村食堂にて結成した。

出席者は二、三、四期生がほとんどで合計七名。顧問に母校柔道部部長の遠藤吉郎先生を迎えて今後の担負を語り合い、発展を約して別れた。

今後の連絡先は、星高明君宛、住所は安積郡富久山町久保田九一星富久山病院内（全奥工業勤務）

お知らせ

⊙原稿募集

第五号の頭稿を募集いたしております。職場体験・風土記・随筆傑作写真（ヤキビネ版）その他、多数投稿して下さい。締切は九月三十日。

⊙年会費納入お願い

年会費百円の受付を一月より始めます。御協力下さい。

⊙住所の連絡

会員の住所または勤務先が変更された場合には、必ずお知らせ下さい。

以上の連絡先は紫理の都合上、広長威彦（郡山市赤木町一七八）宛に願います。

▼待望の第四号を四頁でお届けする。年月は走馬灯の巡り、母校も早や創立十周年。一期生の入学以来一と昔、憲定の学園には念願の新校舎が雄姿安達太良をバツクに美しいコントラストを画く。

▼今号は十周年記念号を特集する計画であつたが、依頼の頭稿も思う様に集らず、折角のプランも稿となる。当時の回想を二篇のみ載せて十周年に寄せた。残念である計画は倒れるを以て良しとするか御多忙の中をお寄せいただいた江崎校長、高木先生、西潟さんの方々に一同心から感謝いたします。

▼毎号のことながら原稿不足を痛感。どうやら今号は四頁を編集できたが、爾後は経費の面からも危ぶまれるが、会員諸士の御協力如何による。それと編集手三名ではどうにもサル知恵も出ない。編集に興味ある諸君の手伝いをお願いしたい。

▼本号は十月中旬に発行する予定であつたのが、多忙と何事もおしせまつてからでないと始められないくせのため、今年もギリギリのところで間に合つた。

▼来年もよい年をお迎かえ下さい